



# ブラジル日本移民100周年記念 エンブ市訪問使節団報告

1908年（明治41年）、移民船の笠戸丸がブラジルへ向けて出航しました。今年は、それからちょうど100年になります。日本とブラジルの両国で記念式典が開催される中、姉妹都市のエンブ市でも「日本移民100周年記念式典」が開催されることになり、日野町から使節団が訪問しました。

▲フラワーフェスティバル会場

9月18日から26日までの9日間、姉妹都市であるエンブ市を訪問しました。

今回の使節団は、エンブ市からの招待によりエンブ市で開催された「日本移民100周年記念式典」と「フラワーフェスティバル開会式」に参加するため、藤澤政男副町長を団長に5名が訪問しました。

18日の朝、日野町を出発し、成田空港からブラジルへ向かいました。現地時間で19日朝8時ごろにブラジル・サンパウロに到着し、温かい出迎えを受けました。

同日の午後、エンブ市役所を表敬訪問し、市長および職員の方からブラジルの現状などのお話を伺い、庁舎内の案内をしていただきました。

翌20日、日本移民100周年記念式典およびフラワーフェスティバルの開会式に出席しました。式典では、多くの日系人の方が今日までの功績に対して表彰を受けておられました。ブラジルでの日系人に対する評価の高さを改めて確認することができました。また、フラワーフェスティバルは市民の手作りにより花と植物が会場いっぱい展示された華やかなお祭り、花と芸術の町エンブ市を象徴するものでした。



▲エンブ市の町並み

▼友好の証を「書」に



▲日本移民慰霊塔の前で（エンブ市内）

翌21日は、エンブ市内にある物故者の慰霊塔を参拝、その後、隣町タボン市で開催された移民100周年記念芸能祭を見学しました。ここでは、日本の踊りや音楽が流れ、まるで日本の文化祭のようでした。そして、交流を深めるため、書道交流を行いました。筆と墨に懐かしさを表す方もおられました。

今回の訪問で、日本から移民として渡られた方の苦難の歴史や現代の日系人の日本離れの悩みなどお聞きすることができました。あらためて、ブラジルの歴史や今日的課題について学ぶことができ、一層の相互理解・交流につながりました。

### 団員 西村みつみさんの感想から

：集まっておられる方に筆ペンや色紙を渡して「何か好きな言葉を書いて下さい」と差し出すと、「40年ぶりに日本語書くわ」とか、「私日本語書けないの、書いて」と…。昔日本語を書くことは許されなかった事などを教えていただきました。

「書いて下さい」と頼まれたのは、「和」「絆」「よき友は最高の財産」などが圧倒的で、昔話を交えながら次から次へと書いて差し上げました。皆さんに喜んでいただき、本当に嬉しかったです。：

【使節団】（団長）藤澤 政男 （団員）西村 みつみ 安藤 貢子 中沼 容子 （随行）山口 ゆづほ（敬称略）